



人生 100 年時代における家庭科教育

社会の人口構造は、出生率と死亡率のバランスによって変化します。日本では出生率と死亡率が低下して高齢者の割合が増加し、世界で最も高齢化が進行しています。つまり、多くの人にとって長生きするのが当たり前である、大衆長寿社会を迎えています。人生 100 年時代では、高齢期が 30 年以上にわたり、人生の 3 分の 1 を占めます。もはや、高齢期は余生ではなく、ライフステージの一つであるといえます。

今春、高等学校で新学習指導要領がスタートしました。高等学校家庭では、小学校家庭、中学校技術・家庭（家庭分野）と同様に、生活の営みに係る見方・考え方を働かせて学習に取り組みます。高校生の多くが履修する「家庭基礎」では、これまで科目のまとめとして位置づけられていた「生涯の生活設計」が、科目の学習の導入として扱われることが示されました。また、「A人の一生と家族・家庭及び福祉」から「C持続可能な消費生活・環境」の内容と関連付け、科目のまとめとしても扱います。これは、「生まれてから死ぬまでの一生を通して、各ライフステージの課題を達成しつつ発達する」という生涯発達の視点で人の一生を捉え、生涯を見通しながら、様々な生活課題に対して意思決定していく力を身に付けることを意図しています。人生 100 年時代をふまえた学習指導が求められています。

人生における目標達成や問題解決に役立つものに、資源（リソース）があります。生活を支える資源には、生活技術や金銭管理能力などの人的資源、家族や友人などの対人資源、物や財産などの経済的資源、住宅環境などの空間資源、時間的資源などがあります。年齢やライフステージ、生活状況によって、必要な資源の内容や質は異なりますが、いろいろな資源を活用することで、リスクを減らし、目標の達成や問題の解決がしやすくなります。

学校での学びや日々の経験は、自分の資源を増やすことにつながります。鍛錬して培い、身に付けた知識や技能、見方・考え方は、誰にも奪うことはできません。子供たちが、生涯にわたって健康で豊かな人生を送ることができるように、家庭科の学びを充実させていくことが期待されます。

静岡大学学術院教育学領域准教授 小清水貴子

小学校家庭科研究部 第2回研修会報告

令和4年8月3日（水）午後 於：教育会館 大会議室

小中家庭科合同研修内容

○実践発表

「課題意識をもち自分の生活につなげる必然性のある学び」

西小学校 川合 幸恵 教諭

「つなぎ合う授業を通して、主体的な態度を育む授業」

蒲小学校 中村 真季子 教諭

○消費者教育教材の使い方

浜松市くらしのセンター 山田 真代子 氏

○情報交換会

消費者教育教材について（小中合同）

家庭科授業・ICTの活用について（小学校）

○実践発表 指導講評 <瑞穂小学校 柳瀬美穂 校長>

「課題意識をもち自分の生活につなげる必然性のある学び」

西小学校 川合 幸恵 教諭

- ・ 題材構想を工夫することで、食生活の改善を自分事として捉える実践になった。
- ・ 食への意識の事前アンケート結果を反映して、必然性のある学びをねらっている。
- ・ 「誰のための献立なのか」をはっきりとさせることで、学びの原動力となっている。
- ・ ワークシートを使用した学習によって、子供たちの少しずつの変容が見てとれる。
- ・ 献立を立てる学習と、実際に調理実習を行う料理との結び付けが今後の課題となる。

「つなぎ合う授業を通して、主体的な態度を育む授業」

蒲小学校 中村 真季子 教諭

- ・ グループによる協働的な学びは、生活経験の差が大きい子供たちにとって、学びを広げ深める助けとなっていた。
- ・ グループ編成の工夫により、発言が苦手な子供がグループで発言できるようになる。
- ・ タブレット端末の活用による主体的な学びは、一人一人の達成感を得るのに有効である。
- ・ 個別最適化された学びを実現していく上で、タブレット端末を使用してグループで作成、もしくは個人で作成など、題材全体でどのように工夫していくかが今後の課題となる。

○消費者教育教材の使い方

講師 浜松市くらしのセンター 山田 真代子 氏

- ・ 学校教育が、SDGsやエシカル消費に興味関心をもつきっかけになっている。
- ・ 消費者として自分で考え判断し行動する力を育むために、学校教育は重要である。
- ・ 浜松市消費者教育推進計画により、オリジナル教材作成の取組をしている。
- ・ 現職の教員がアイデアを出し、使いやすい教材にすることで、内閣府特命担当大臣賞を2度も受賞した。
- ・ エシカル消費やフェアトレードに対する認知度が上がった。
- ・ 教材の活用度がまだ低いので、学校現場でさらに消費者教育教材を活用してほしい。
- ・ 必要な教材は、くらしのセンターから連絡便で送付することができる。

《教材の紹介》

①「人・地球にやさしい消費者になろう」（発達）

…買い物の手順・売買契約の基礎など、発達支援学級だけでなく、通常の学級でも活用できる教材。

②「筆箱を選ぼう」（小学5年）

…複数の筆箱を比較し、よりよい選択について学習する教材。新たに環境を考えた筆箱が加わった。

③「じゃがいもを選ぼう」（小学6年）

…地産地消・有機栽培など、目的に合った商品の選び方が学習できる教材。

④「フェアトレードマスターをめざそう」「写真を見て考えよう」（小・中）

…フェアトレードやエシカル消費について学ぶ大判ポスター。

⑤「よりよい現在と未来を考える食の選択」（中学）

…昼食の選択を通して、消費行動が社会や環境とつながっていることを学ぶ教材。

⑥「浜松から未来をひらく エシカル消費」（中学）

…「エシカル消費」について学ぶパンフレット。小学校の総合的な学習でも活用できる。

⑦「消費者が主役の社会をめざして」（中学）

…成年年齢引き下げに対応し、身近な事例や消費者問題をもとに自立した消費者について学ぶパンフレット。

⑧「消費者市民になろう！」（高校）

…契約の基礎知識やフェアトレードについて学ぶDVD教材。教員の教材研究としても使える。

○情報交換会

- ・消費者教育教材を持ち寄り、使い方や使ってみた感想などを、小中合同で情報交換した。
- ・ICTの活用や1学期に行った家庭科授業実践などについて情報交換をした。

《情報交換会の様子》



【編集後記】

今年度の夏の研修は午後のみとなりましたが、ぎゅっと凝縮された中身の濃い研修でした。小中の教員が集まって情報交換をすることができたことも、とても有意義でした。コロナウイルスにより調理実習の方法も制限されるなど、対応に苦慮するところもありますが、今回得たことを2学期の授業実践に生かしていきたいと思えます。まど担当 原田 佳代子